会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">附属機関又は
会議体の名称</td><td>平成３０年度　豊島区子ども読書活動推進会議（第２回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td>文化商工部 図書館課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開　催　日　時</td><td>平成 30 年 9 月 13 日（木）　午後 4 時 15 分～5 時 15 分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開　催　場　所</td><td>会議室（中央図書館　5 階）</td></tr>
<tr><td colspan="2">議　　題</td><td>１　豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）平成２９年度各課進捗状況について
２　読書活動実態調査項目の検討について
３　その他</td></tr>
<tr><td rowspan="4">公開の可否</td><td rowspan="2">会　議</td><td>□公開　■非公開　□一部非公開</td></tr>
<tr><td>非公開の理由：行政機関における政策意志決定過程の途上に位置付けられる会議であるため</td></tr>
<tr><td rowspan="2">会 議 録</td><td>□公開　□非公開　■一部非公開</td></tr>
<tr><td>一部非公開の理由：行政機関における政策意志決定過程の途上に位置付けられる会議であるため</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>会　員</td><td>文化商工部長（会長）、教育部長（副会長）、図書館課長、長崎健康相談所長、子ども若者課長、保育課長、放課後対策課長、指導課長、学習・スポーツ課学習担当係長（代理）、地域区民ひろば課管理グループ係員（代理）</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td>図書館課経営担当係長、図書館課主任</td></tr>
</table>

審　議　経　過

1　豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）平成２９年度各課進捗状況について

事務局：資料２－１について説明

会　長：各課進捗状況について、質問等ありましたらいただきたい。

会　員：４ページのＹＡ書の数値が 29 年度減っている。これに対して、中学校は伸びている因果関係は。なぜＹＡが減ったのか分析しているのか。

事務局：区立図書館の貸出冊数については、平成 26 年、27 年と 68,000 冊で数値が変わらなかったが、28 年度が突出して 72,000 冊になっている。また、29 年度に 68,000 冊に戻ってしまった状況である。なぜなのか解明したいと思っている。単年度で戻ってしまったことは、今の時点では、解明できていない。学校図書館については、司書が 28 年度は、１校池袋中学校のみだったが、29 年度は、8 校全てに配置された。学校図書館に司書が勤務したことにより貸出冊数が増えたのではないかと考えている。

会　長：ＹＡというのは、中学生向けのことと考えてよいのか。

事務局：ＹＡというのは、ヤング・アダルト。中高生を対象とした、児童と一般図書の中間。ＹＡを対象とした読書活動の推進は、この計画の元々の調査の時からあるが、これからも検討していく必要がある。

会　員：同じく４ページだが、第三次計画を見ると 22 年度から学校図書館や区立図書館の貸出について記載されており、学校図書館も区立図書館も年々増えている。すると 32 年の目標値が数値としては低い。今までの実績を考えるともう少し高くてもいいのではないか。この数字を算出した根拠を教えていただきたい。

事務局：豊島区基本計画も５％増で設定しているので、その数値に合わせて５％増で設定している。

事務局：基本の数値が 26 年度。その時には、9,824 冊で 1 万冊にもいかなかった。ところが、学校の努力と区立図書館の司書を学校に配置したことをきっかけに、学校の司書担当の先生と司書とでコミュニケーションをとり、どのような本を購入するかという選書が積極的になったことも大きかったのではないかと分析している。

会　長：数字については、これからだが、現在の計画については、そのように算出したということである。読書通帳と読書ノートの違いをもう一度説明していただきたい。

事務局：読書通帳は銀行の通帳とほぼ同じスタイルである。印字をする通帳機があり、貸出しをした利用者が通帳記帳と同じよう機器に差し込むと貸し出した本のタイトル、著者名等が印字されるシステムになっている。貸出した本の記録が機械で印字できるものである。

読書ノートというのは、手作りで私どもが印刷した。児童がノートにどんな本を読んだか、その本を読んでどう感じたかを記入できる部分と、最後に、おすすめ本の紹介カードを付けているので、自分が読んでこんな本が良かったということを記載して図

書館に持ってくるとそれが、掲示されるというものになっている。

副会長：たまると何か特典があるのか。

事務局：読書ノートに関しては、５冊ためるとリングファイルをプレゼントする。

事務局：読書通帳は、指定管理者の提案事業であり特典はない。

会　長：29 年度の各課進捗状況について、特に気になるところがなければ、ご承認いただきたい。

会　員：承認

会　長：承認いただいたということで、今後のスケジュールについて事務局より説明する。

事務局：承認いただいた「豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）平成２９年度各課進捗状況」を今後開催予定の豊島区図書館経営協議会、教育委員会に報告を行い、その後、ホームページに掲載する予定である。

２　読書活動実態調査項目の検討について

事務局：資料２－２－１、２－２－２、２－２－３、２－２－４について説明

会　長：朝読のこと、漫画、電子書籍の話があった。わかる範囲で教えていただきたい。今日は、概略の説明をした。改めて委員のみなさまに調査させていただき、ご意見をまとめて、会議にかけることになっている。それでは、ご意見等いただきたい。特に、朝読の関係について、どう捉えていいのか。

会　員：朝の読書の時間は、子どもたちは、授業とは考えていない。授業は、あくまでも 1 時間目、2 時間目という取扱いになっている。前回は、平成 26 年度に実施されたということだが、小学 2 年生・5 年生版の問 5 番、「あなたは 1 日にどのくらいの時間、本を読みますか。」で、5 年生であれば回答できるが、2 年生が何時間何分と出すのは難しい。前回、同じことで実施されたのであれば、学校で担任が読んで子どもが回答していた可能性がある。次に、問１５番、「あなたの家には、たくさん本がありますか。」たくさんという感覚、たくさんある・ないというのは数値ではないので難しい。5 冊でもたくさんという家庭もある。もっと、具体的にわかりやすくしたほうがいい。これを学校でやるのか、家に持ち帰ってやるのかみえないが、どんなイメージでやるのか。

事務局：前回は、おそらく学校で授業中に時間を割いてご協力いただいた。それを、図書ネット便等で回収した。

会　員：アンケートを取るとなれば、ご家族の方は、どのようなアンケートを子どもたちはやっているのか、保護者向けアンケートはあるが、子どもはどのようなアンケートをやったのか保護者がわかったほうが、アンケートに協力してくれるのではないか。

副会長：アンケートの中身を全部読んだ訳ではないが、実態調査の結果から何を抽出するか、何をこのデータから実施していこうとするのかが問題である。子どもが本を好きになるためのきっかけというのは、どこにあるのか探りたい。幼い時に親に読み聞かせて

もらったとか、家にあったというのでもいい。その経験が多い人ほど、本に素直に入っていける人が多いと、そういう傾向を捉えるということは大事である。子どもたちに「親から読み聞かせをしてもらいましたか。」という経験を捉える設問は、有意なのではないか。逆に本が嫌いになる子は、本と疎遠になるきっかけがどこにあるのか探っていく必要がある。比較するうえで大切ではないか。いろいろ遊びが増え、友達が増え、そのように、だんだんシフトしていくと思うが、一番の敵は、ゲームではないか、テレビではないかと思っている。日常的にテレビがどのようにその子の生活の時間を取っているのか、ゲームがその子の興味のどのくらいを占めているのかという実態を合わせて把握していくことで、分析が深くなる。一つの方向を探り出すには有意ではないかという気がしたので、そのような研究をしていただきたい。

会　長：調査の目的は、読書活動をもっともっと豊かにしていこうというもの。今の計画と、これからどうしていくのかということ。お子さんの環境はどうかということも。
調査項目については、後程、改めて送らせていただくので、時間はありますが、今、気が付いたことでも教えていただきたい。

会　員：素朴な質問ですが、性別は聞いていいのか。

事務局：これから男子、女子の分析をしているのか、必要があるのか、性差があるのかも含めて検討したい。26 年度はこういう形で調査をしたということである。

会　員：中高生時代は、部活に没頭したり、音楽を聞いたりしていた。「あなたは普段の生活の中で、・・・」のところに、そのような項目が無い。

会　員：健診の時に、本の紹介をしていただきありがとうございます。健診の時もお子さんみなさん本に興味があり、子どもたちのほうから本を取りに来る。読み聞かせをする親御さんもいる。それが、今後どうつながっていくのか見えるといい。最近は、父親が健診に来る家庭が増え、母親より父親の方が反応が良く、興味があり食いつくのは、大体、父親である。小学校、中学校、高校といろいろ関心事があると思うが、本が楽しいというベースをどこかで覚えているとつながると思い、難しいかもしれないが、見える調査ができればよい。

会　員：気になったのは、質問項目に「インターネットする」という項目があるが、子どもたちは、「インターネットする」というよりも「ＳＮＳをする」かなと思うのが一つ。
学習・スポーツ課でも豊島コミュニティ大学に入っている研究生の方々が図書館通信に投稿させていただいたり、通信のところでもお声をかけていただいてありがたいと思っている。みらい館大明でブックカフェをやっているが、子どもたちが本と出合うのは、図書館だけでなく中高生センターなどにも本があり、区立図書館だけでないところで本と出会えていたらそれもよい。広域のところで本が周りにあってこれでもいいというイメージがあればよい。

事務局：区民ひろばの子育てひろばに団体貸出を始めている。いつも、区民ひろばに行くと同じ絵本しかなかったのが、毎月毎月、違う絵本が入ってくるということで、評価をい

ただいている。

会　員：新しい事業で、いままで3か所しか実施していなかった図書ネット便を増やしていただき、所長からも、活用して、有意義に事業を行っていると聞いている。

副会長：子どもと書いてあるが、普通、18歳ぐらいまでが子どもなのか。

事務局：子ども読書活動推進計画の基となる法律で、年齢が定められている。

副会長：高校生も対象になっているのか。

事務局：対象になっている。

副会長：高校生も今回、アンケートを600人程度実施する。高校生になると相当大人になってくるので、日本とヨーロッパでは、文学といっても表現方法がまったく違うので、外国文学に触れる、知るのは、相当な起爆財になる。面白いものがたくさんある。翻訳されていないものもあるが、そういう世代の人に知らない世界のことを掘り起こしていくような調査ができるとすごくよい。これからの時代は特に、研究していただきたい。

会　長：いろいろお話しいただいた調査項目についての意見を反映して、こちらに書かせていただきました調査スケジュール、来月10月には、調査項目確認の依頼をさせていただきくので、是非、その場でもご意見をいただきたい。

３　その他

会　長：それでは、議題の３その他、みなさまからこの場でご発言することがありましたらお話しください。

会　員：先ほどの、各課進捗状況の１４ページ３６番、学校図書標準の達成率７０％～８０％という項目がある。学校図書標準というのは、各学校の児童数によって決められるものだが、先日、学校司書の連絡会の時に、学校図書標準まで冊数が入らない学校がある。そこも可能であればその調査にいれていただきたい。標準にもっていきたいが、書架が無く、ダンボールに入りっぱなしという意見もあったので、教育委員会と一緒に調査に入るとよい。

副会長：開架と閉架という考え方をすると学校図書館にも閉架があるとそれも入れるのか。

事務局：昨年度までは達成していたが、２９年度に向けて児童数が増えたということがあり、児童数が増えると同じ本の数でも標準の割合が減るという。課長が非常に悩んでいるので、その分、本を増やすのは、書架の問題もあって、課題でもある。決して本が足りないということではなく、児童が急激に増えたということが大きいと理解している。

会　員：数字で勝負するなら、図書標準の数値を少しゆるくしていただくしかない。

会　長：いろいろなご意見をいただき、話は尽きないが、是非、これから調査の中でいろいろご意見をいただきたい。それでは、最後に事務局からの事務連絡を。

事務局：今後１０月にアンケート調査をする。お忙しい中ではあるが、協力をいただきたい。

<table>
<tr><td colspan="2">今後、今回の会議の議事録を作成し、メール・交換便等で送付するので、ご確認いただきたい。次回の会議は、来年１月に開催する。議題は平成３１年度に実施する読書活動実態調査の項目について、ご審議をいただきたい。
会　長：それでは、これで平成３０年度第２回の豊島区子ども読書活動推進会議を閉会する。</td></tr>
<tr><td>提出された資料等</td><td>配付資料
資料 2-1　豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）平成 29 年度各課進捗状況
資料 2-2-1　平成 31 年度「区民読書活動実態調査」実施計画書(案)
資料 2-2-2　平成 26 年度読書活動実態調査（小学生）
資料 2-2-3　平成 26 年度読書活動実態調査（中学生・高校生）
資料 2-2-4　平成 26 年度読書活動実態調査（保護者）

参考資料　よんでみよう！オリンピック・パラリンピック</td></tr>
</table>